

就労に向けた課題

課題1 健康状態

- 支援対象者本人の健康状態に対する認識と医学的判断とのギャップを明らかにする。

課題2 就労意欲

- 本人が就労意欲を失っている要因と求職活動に消極的になっている要因を解明し理解する。

課題3 本人の希望と現実のギャップ

- 本人の希望する仕事、本人の能力と現実の雇用環境についてアセスメントする。
- 本人の希望と現実とのギャップについてケースワーカーと本人が理解を共有する。

2 就労支援のアセスメント

アセスメントシートについては、71頁～76頁を参照してください。

(1) 傷病に対する自覚症状と主治医の意見

まず、傷病に対する自覚症状を本人から、また、病院訪問により本人の病状を主治医から聴取し、本人が自身の健康状態に対して正しく理解しているか否か、福祉事務所と医療機関に対する訴えが異なっていないか確認し、傷病に対する本人の認識と医師による医学的判断にギャップがないかの判断材料にします。

また、主治医の医学的な判断に基づき、健康状態から就労する上で業種・仕事内容、勤務日数等について制限を受けるか否か、制限を受けるのであれば、具体的な業種・仕事内容、勤務日数等についてどの程度制限を受けるか主治医から聴取します。

(2) 求職活動の状況

実際の求職活動の状況及び求職活動を行っていない場合はその理由等の情報を得ることで、求職活動に対して消極的になっていないか、もしくは求職活動を行っていない理由が本人の意欲に起因していないか確認します。

(3) 現在の雇用環境

現在の雇用環境から、どのような業種に求人が集まっているのか、どのような雇用条件に求人が多いのか確認します。

(4) 被保護者の考える就労のイメージ・希望

本人が希望している業種・雇用条件等の希望を聴き、本人のこれまでの職歴、健康状態等の自身の状況や現在の雇用環境と照らし合わせることで、現に就職できる可能性の高い仕事と希望の仕事についてギャップが生じていないかの判断材料とします。また、本人の希望する支援内容や目標就職時期を確認することで、今後の自立支援計画策定において、支援内容や支援期間を決めていきます。

(5) 現在の求職方法

被保護者の中には、ハローワークを利用せず知人の紹介のみで求職活動を行うなど、求職方法を限定していることで就労の可能性を狭めている者や、履歴書の書き方が分からない、面接において十分に自分をアピールできないなど、具体的な求職活動や採用面接での不得手によって採用に至らない者もいます。

そのため、求職活動における履歴書の書き方、面接の受け方、ハローワーク利用の仕方を確認し、求職方法について支援を必要しているかの判断材料とします。また、ケースワーカーが本人の外見（髪型、髭、爪などの整容、服装、話し方等）に関する見立ても行い、外見からの印象が求職活動の妨げになっていないか確認するなど、整容や話し方などに関する支援も行う必要があるか判断します。

就労支援のアセスメント(まとめ)

① 傷病に対する自覚症状と主治医の意見

【アセスメント項目】

- § 自覚症状 具体的な症状、対象者の認識
- § 主治医の意見 病名、通院頻度、現在の治療、主治医から見た対象者の病気・症状に対する理解、就労する上での制限事項

② 求職活動の状況

【アセスメント項目】

- § 求職活動の状況 求職開始時期、求職日数、主な求職方法、直近1か月の面接回数、求職活動を行っていない理由

③ 現在の雇用環境

【アセスメント項目】

- § 現在の雇用環境 管内の有効求人倍率、主要産業別の求人件数、ハローワーク職員の助言

④ 被保護者の考える就労のイメージ・希望

【アセスメント項目】

- § 希望の就労先 業種、賃金、週の勤務日数、勤務時間、雇用形態、勤務先、その他の条件
- § 希望の支援内容 求人情報の提供、職安等への同行、職業訓練、技能習得の斡旋、履歴書の書き方、模擬面接、特に支援は必要ない等
- § 目標就職時期

⑤ 現在の求職方法

【アセスメント項目】

- § 履歴書の書き方 記入に使う筆記用具、写真の貼り付け、志望動機や長所等(履歴書の提出)の記述、本人の評価
- § 面接の受け方 事前に行うこと、当日の身なり、面接で気を付けていること、本人の評価
- § ハローワーク利用の仕方 利用状況、利用方法
- § 話し方、整容

3 課題ごとの支援内容の例及び支援時における留意点

就労支援については、本人が抱える課題も様々であることから、その課題に着目した支援内容を明確にすることが必要です。そのため、就労に向けた課題を明らかにし、どのような支援を行ってその課題を解決するかについて、ケースワーカーが十分に認識して支援を行うことが重要です。

就労支援のアセスメント結果と支援内容の例については、77頁～78頁をご参照ください。

(1) 健康状態に関する理解のギャップを解消するための支援

ギャップの生じている大きな要因として、本人が主治医の診断による病状及び治療方針等を十分に理解していないことが挙げられます。まずは、主治医から本人に対して、病状、治療方針等を十分に説明してもらうことが重要であり、そのギャップがあることを把握しているケースワーカーがそういった機会設定の支援を行う必要があります。

また、主治医から一方的に説明を受けて本人に理解を促すというだけでなく、本人が自覚症状について改めて主治医に伝えることで、想定していなかった症状が新たに発見され、その治療方針のあり方を主治医に相談するなど、支援の幅を広げることも可能になります。

これらの支援を行ううえでの留意点として、ケースワーカーは医療に関する専門的な知識を有していないため、主治医の意見だけを聴取しただけでは、本人の自覚症状や訴えを無視した支援を行いがちになります。ギャップを解消する支援を行うということは、本人、主治医、ケースワーカーが健康状態に関する理解を共有することが目的であり、そのどれが欠けても支援が成り立たなくなることから、医学的判断のみに左右されず、本人の健康状態に関する訴えについても十分確認していくことが重要です。

(2) 就労意欲のない・乏しい者に対する意欲喚起

就労意欲の喚起を行うための支援として、生活保護制度における保護の要件、被保護者の義務について、再度十分に説明を行い、本人に正しく理解してもらうことは、どの対象者にも共通する基本の支援事項と言えます。

また、就労意欲のない・乏しい者に対する支援については、まずケースワーカー、査察指導員等による継続的かつきめ細やかな家庭訪問により、就労意欲がない・乏しい理由を把握します。精神的な疾患の可能性を検証するため、嘱託医や保健師による同行訪問などの検討も考えられます。

仕事を失った挫折感、なかなか就職できない徒労感や自信喪失、不規則な生活習慣など、就労意欲を失っている要因は様々です。

例えば、

- ① 仕事を失ったことで挫折感を持っている者には、就職セミナーへの参加の斡旋を行う等して働く自信を取り戻すよう支援、
- ② 求職活動を行ってもなかなか就職できていないことで徒労感や自信を喪失している者には、ケースワーカーがハローワークへ同行するなどして求職活動の

現状を本人と共有し、励ましの支援

- ③ 規則正しい生活など生活習慣の確立から始めなければならない者には、家族の理解・協力が得られるように調整しながら支援

など、その就労意欲を失った要因に応じて個別の支援を行うことが重要となります。

(3) 就職できる可能性の高い仕事と希望の仕事にギャップがある者に対する支援

希望の業種・仕事内容、給与、待遇を目指して求職活動を行っている者が、本人の最終学歴、これまでの職歴から現実的に就労できる可能性の高い仕事とギャップが生じている場合、そのギャップは本人が現実の自身の状況を認識していないことを要因としていることがあります。まずは、ハローワークへ同行する等して求職活動の現状認識について本人と共有した上で、これまでの求職活動を振り返って就労に結びつかない理由を確認し、仕事のイメージ・希望とのギャップをどうやって解消するか等を話し合う支援を行う必要があります。また、その過程において、本人もすぐに自身の現実の状況を認識することが難しい場合もあるため、ハローワーク職員から就職に結びつきやすい業種・仕事内容の助言を受けるなど、専門的な見地からの意見も聴取すると、よりギャップの解消に向けた支援が有効となります。

また、職業訓練や技能・資格取得により、そのギャップが解消されるような場合には、本人の希望等も考慮して、生業扶助を活用した中・長期的な支援を行う視点を持つことも必要です。

さらに、健康状態からの制限により就職することが難しいような場合には、内職等の自宅で就労可能な仕事や求職方法を紹介する等して、本人の健康状態にあった幅の広い支援を行う必要があります。

(4) 求職方法に課題がある者に対する支援

ア 履歴書の書き方

求職活動において、履歴書は採用を行う企業側が見る最初の基礎資料となることから、その位置付けは重要なものとなります。よって、本人の作成した履歴書を確認し、履歴書に空欄がないか、ボールペンで記載しているかなど体裁を整えたり、志望動機や長所等の項目で十分に自分をアピールできているかなど内容を充実させたり、良い印象を与えるよう丁寧に記載するなど、個別に履歴書の書き方を助言したり、履歴書をより良いものへ改善するような支援を行うことが必要です。

イ 面接の受け方

採用されるか否かは、面接で決まるといっても過言ではありません。そのため、求職活動では、非常に重要な位置付けとなります。面接当日の身なり、面接時の話し方や姿勢、面接での心構え等に対する支援を行う必要があります。人と話すのが苦手であったり、十分に自分をアピールできない者もいることから、福祉事務所職員や就労支援員などが面接官となって模擬面接で面接の受け方を訓練する支援を実施することが重要です。

ウ ハローワークの利用

求職活動を行っている被保護者の中には、友人や知人の紹介に頼って、ハローワークを利用しない者もいます。こうした状況の背景には、ハローワークを一度も利用したことがないためハローワークでの仕事の探し方が分からない、ハローワークが近くにないなどの理由がある場合もあります。多くの求人情報を有するハローワークを、求職活動のツールとして活用できていない場合には、求職活動におけるハローワークの有用性、利便性を説明し利用を促したり、ハローワークに同行してその利用方法を教える等の支援を行うことが重要です。また、求職活動にかかる交通費の支給を検討し、ハローワークを活用した積極的な求職活動を支援することも大切です。

エ 生活保護受給者等就労支援事業の活用

平成17年度から、自立支援プログラムの1つとして、福祉事務所とハローワークが連携した生活保護受給者等就労支援事業が開始されています。この事業は、稼働能力及び就労意欲がある者から優先して、福祉事務所からハローワークへ支援要請することにより、ハローワークに配置されている就労支援コーディネーターと福祉事務所職員とが支援対象者と個別に面接を行い、就職支援ナビゲーターによる支援、トライアル雇用の活用、就職準備講習付き公共職業訓練、生業扶助等の活用による民間教育訓練講座の受講勧奨、一般の職業相談・紹介の5つの支援メニューから、適切な支援メニューを選定し、自立に向けた支援を行うものです。本プログラムの利用が適当と思われる者に対しては、参加を勧奨し積極的に支援要請を行います。

課題ごとの支援方法の例及び支援時における留意点(まとめ)

① 健康状態に関する理解のギャップを解消するための支援

- 主治医から本人へ傷病、病状及び治療方針等を再度説明
- 本人の自覚症状について主治医と理解を共有し、その治療方針のあり方について主治医へ相談

② 就労意欲のない者・乏しい者に対する意欲喚起の支援

- 継続的かつ、きめ細かな家庭訪問や所内面接
- 就職セミナーへの参加の斡旋
- ケースワーカーが職安同行などにより求職活動の現状を本人と共有すること
- 家族の理解・協力を求めること
- 生活保護制度における保護の要件、被保護者の義務の再度の説明

③ 就職できる可能性の高い仕事と希望の仕事にギャップがある者に対する支援

- これまでの求職活動を振り返って、就労に結びつかない理由の確認
 - 雇用環境と対象者のイメージ・希望のギャップを解消する話し合いを行う
 - ハローワークへ同行する等して、求職活動の現状認識について対象者と共有
 - ハローワーク職員から就職に結びつきやすい職種・仕事内容の助言
- 〔就労の可能性が見込める者〕
- 職業訓練、技能・資格取得の斡旋
- 〔就労に制限を受ける者〕
- 内職等の本人の健康状態に合った仕事や求職方法の紹介

④ 求職方法に課題がある者に対する支援

【履歴書の書き方】(対象者の作成した履歴書を確認しながら)

- ① 履歴書形式(記入に使う筆記用具・写真の貼り付け)の確認
- ② 志望動機や長所等の記述内容を確認
- ③ ①、②の支援手順を踏まえて、履歴書の作成
- ④ 支援後に作成した履歴書に対する対象者の評価を確認
- ⑤ 評価が悪ければ、理由を確認の上で再度同様の支援を継続

【面接の受け方】

- ① 面接を受ける前に準備しておくことの確認
- ② 当日の身なりに関する確認

- ・ 髪型、髭、爪等の整容、服装
- ③ 面接での心構え、留意点の確認
- ④ 面接における基本質問(自己アピール)の練習
 - ・ 話し方、姿勢
- ⑤ 福祉事務所職員を面接官にして模擬面接を実施
- ⑥ ⑤の支援結果を見て、修正すべき点を支援

【ハローワークの利用の仕方】

- ① ハローワークの利用状況の確認
- ② 利用していない者には、その有効性を説明
- ③ ハローワークに同行し、利用方法の確認、支援
- ④ ハローワーク職員との面談に同席し、面接の申し込みを行う

【生活保護受給者等就労支援事業の活用】

4 支援の評価、終結

効果的な就労支援により求職活動を行った結果、現に就職して働き始めた者に対し、これまでの努力を認め、積極的に評価することを忘れてはいけません。効果的な就労支援があったとしても、求職活動を継続し就職に至ったのは、本人の努力によるものです。就職したという結果だけではなく、就職までの努力を積極的に評価することも就労支援にとって重要です。就職までの努力や苦労をねぎらうことで、それを見つめ続けている存在がいること、応援している存在がいることを意識してもらうことも重要な支援の一つです。就労支援は就労を開始すればそれで終了と言うことではなく、就労を継続できるよう相談、支援を行うことも重要なことから、就労を継続していること、継続するため努力していることを積極的に評価することも大切です。

就労開始後のフォロー（就労定着支援）では、精神的なフォローが重要です。働き始めた時の不安やストレスを抱えているので、励ましていくことも重要になります。

また、就労支援を行ってもなかなか就職できていないような場合には、その間の求職活動も踏まえて、再度、アセスメントを行って支援のあり方を見直すことも必要です。この見直しによって、1回のアセスメントでは見出せなかった課題のほか、新たな課題が発生する場合があります。その場合には、就労支援ではなく、他の支援を検討するなど、本人の現在の状況に合わせた支援を行う必要が生じますので、なかなか自立に向けた課題が解決されない場合は、再度アセスメントを行い、支援のあり方を見直すことが重要になります。

支援の評価、終結(まとめ)

これまでの支援状況の確認

【就労が実現した場合】

§ 就職状況(就労状況申告書等により確認)

- ・ 勤務先、所在地、電話番号、働き始めた日、勤務形態、勤務時間、仕事の内容
- ・ 給与、社会保険、その他

§ 就労開始後の状況確認

§ 支援方針(終了・継続・再アセスメント)

【就労が実現しない場合】

§ これまでの求職活動

§ 本人の申立(不採用理由・今後の目標・医療の状況等)

- ・ 就労に至らない理由

§ 支援対象者の評価

§ 担当者の評価

§ 支援方針(終了・継続・再アセスメント)

就労支援のアセスメントシート << 基礎シート No. >>

平成〇年〇月〇日～〇年〇月〇日現在 記入者

最終学歴	中学・高校・高専・短大・大学・大学院・その他() /卒業又は修了 中退・在学中 最終学歴が中退の場合は、その中退した理由		運転免許	無 ・ 有()	
			資格		
				特技	
基本項目	これまでの職歴	勤務期間	勤務先	仕事内容・業種	離職理由
		1. ~			
		2. ~			
		3. ~			
		4. ~			
		5. ~			
		6. ~			
		7. ~			
健康状態	医学的 判断 (主治医意見等)	就労	制限なし ・ 制限あり		
		仕事内容			
		1箇月の勤務日数	制限なし ・ 15日以内 ・ 10日以内 ・ 5日以内 ・ その他() その理由		
		1日の勤務時間	制限なし ・ 5時間以内 ・ 3時間以内 ・ その他() その理由		
		その他			
就労意欲の判断	求職開始時期	1年以上前～ ・ 6箇月～1年以内 ・ 3箇月～6箇月以内 ・ 1箇月～3箇月以内 ・ 1箇月以内 ・ なし			
	求職日数	月()日程度 ・ 週()日程度			
	主な求職方法	<input type="checkbox"/> ハローワーク <input type="checkbox"/> 求人誌、新聞広告 <input type="checkbox"/> インターネット <input type="checkbox"/> 親族、知人の紹介 <input type="checkbox"/> その他() 件 (内訳：連絡待ち 件 ・ 不採用 件 ・ その他 件)			
	直近1箇月の面接回数	主な不採用理由			
	求職活動を行っていない理由	1. 育児・子育て 2. 員の看護・介護 3. 自身の体調不良 4. 自身の精神的不調 5. その他() ※具体的な状況・原因:			
	支援者の意見・評価				
対象者が考える就労のイメージ・希望	業種	建設業・製造業・情報通信業・運輸業・卸売・小売業・飲食店・宿泊業・医療・福祉・サービス業・その他()			
	仕事の内容				
	賃金	・ 5万円～10万円 ・ 10万円～15万円 ・ 15万円～20万円 ・ 20万円以上 ・ その他()			
	週の勤務日数	・ 1日～2日 ・ 2日～3日 ・ 3日～4日 ・ 4日～5日 ・ その他()			
	勤務時間	～ まで / 1日 時間、週 日、月 日勤務 / 日勤・夜勤・交代勤務			
	雇用形態	・ 正社員 ・ 嘱託 ・ パート ・ アルバイト ・ その他 ()			
	勤務先	・ 管内 ・ 管外 (勤務地) / (具体的に:)			
	その他の条件				
	希望する支援内容	<input type="checkbox"/> 求人情報の提供 <input type="checkbox"/> 職安等への同行 <input type="checkbox"/> 職業訓練、技能習得の斡旋 <input type="checkbox"/> 履歴書の書き方 <input type="checkbox"/> 模擬面接 <input type="checkbox"/> 特に支援は必要ない <input type="checkbox"/> その他()			
	目標就職時期				
就労に向けての課題・問題点等					
就労支援に向けたGWの見立て (課題改善や長所を伸ばすための支援、活用できる資源等について)					

就労基礎シート No.

就労支援のアセスメントシート < 支援検討シート No. >

平成〇年〇月〇日～〇年〇月〇日現在 記入者

現在の求職方法	履歴書の書き方 (履歴書の提出)	記入に使う筆記用具		
		写真の貼り付け	・ 貼り付けている ・ 貼り付けていない	
		志望動機や長所等の記述	理由 ・ 面接を受ける会社に合わせて記述 ・ 全ての履歴書に同じ内容を記述 ・ ほとんど記述していない	
		本人の評価	理由 ・ 十分にアピールするものができている ・ 一般的なものができている ・ あまり良いできとは言えない ・ よく分からない ・ その他()	
	面接の受け方	事前に行うこと	<input type="checkbox"/> 履歴書の作成 <input type="checkbox"/> 自己アピールの練習 <input type="checkbox"/> 受ける会社の情報を収集 <input type="checkbox"/> 面接場所の所在地、所要時間のチェック <input type="checkbox"/> 着用する服を用意 <input type="checkbox"/> 模擬面接 <input type="checkbox"/> 特に何もしない <input type="checkbox"/> その他()	
		当日の身なり		
		面接で気を付けていること	<input type="checkbox"/> 面接時間に遅れないようにする <input type="checkbox"/> 笑顔で心掛ける <input type="checkbox"/> 礼儀正しくする <input type="checkbox"/> 姿勢をよくする <input type="checkbox"/> 言葉遣いに気をつける <input type="checkbox"/> 目を見て話す <input type="checkbox"/> 積極的にアピールする <input type="checkbox"/> 特に気をつけてない <input type="checkbox"/> その他	
		本人の評価	理由 ・ 得意である ・ どちらとも言えない ・ 苦手である	
	ハローワーク 利用の仕方	利用状況	理由 ・ よく利用する ・ たまに利用する ・ ほとんど利用しない ・ 全く利用しない	
		利用方法	<input type="checkbox"/> 求人情報の確認と面接の申込み <input type="checkbox"/> タッチパネルで求人情報を検索 <input type="checkbox"/> 職業訓練、技能習得講座の募集確認 <input type="checkbox"/> あまり活用していない <input type="checkbox"/> その他()	
面接の申込み方法			タッチパネルでの求人情報検索方法	
話し方	CWの見立て	<input type="checkbox"/> 知っている <input type="checkbox"/> 知らない		
現在の支援方法	現在の主な支援状況			
	評価 (支援担当者所見)	福祉事務所としてできたこと、今後の課題		
		対象者ができたこと、努力した点、今後の課題		
自立支援計画策定のポイント (支援担当者所見)				

就労支援のアセスメントシート << 基礎シート 記載要領 >>

平成〇年〇月〇日～〇年〇月〇日現在 記入者

最終学歴	中学・高校・高専・短大・大学・大学院・その他() /卒業又は修了 中退・在学中		運転免許	無 ・ 有()	就労 基礎シート No.
	最終学歴が中退の場合は、その中退した理由 ・中退した理由が、非行や傷病、ひきこもりに起因していないか確認する ・中退したことが、仕事をやる上で自信喪失につながっていないか確認する		資格	・運転免許以外に就労に役立つ資格を持っているか確認する	
基本項目	これまでの職歴	勤務期間	勤務先	仕事内容・業種	離職理由
		1: ~			・何が原因で離職したのか知ることで、対象者の苦手なことを知り、適性職種と職場での適応能力の判断の基礎資料とする。
		2: ~			
		3: ~			
		4: ~		過去にどのような業種の仕事に携わっていたか、その中でどのような業務を行っていたかを確認することで、適性職種の判断の基礎資料とする	
		5: ~			
		6: ~			
		7: ~			
健康状態	医学的判断 (主治医意見等)	就労する上での制限事項	就労	制限なし ・ 制限あり	
			仕事内容	・医学的な判断に基づき、就労する上で制限を受ける業種や仕事内容を確認し、就労支援の基礎資料とする。	
			1箇月の勤務日数	制限なし ・ 15日以内 ・ 10日以内 ・ 5日以内 ・ その他() その理由	
			1日の勤務時間	制限なし ・ 5時間以内 ・ 3時間以内 ・ その他() その理由	
			その他	・その他、特筆すべき制限事項があるか確認し、就労支援の基礎資料とする。	
就労意欲の判断	求職活動の状況	求職開始時期	1年以上前～ ・ 6箇月～1年以内 ・ 3箇月～6箇月以内 ・ 1箇月～3箇月以内 ・ 1箇月以内 ・ なし		
		求職日数	月 ()日程度 ・ 週 ()日程度		
		主な求職方法	<input type="checkbox"/> ハローワーク <input type="checkbox"/> 求人誌、新聞広告 <input type="checkbox"/> インターネット <input type="checkbox"/> 親族、知人の紹介 <input type="checkbox"/> その他()		
		直近1箇月の面接回数	件 (内訳：連絡待ち 件 ・ 不採用 件 ・ その他 件)		
		求職活動を行っていない理由	1. 育児・子育て 2. 員の看護・介護 3. 自身の体調不良 4. 自身の精神的不調 5. その他() ※具体的な状況・原因：・現在求職活動を行っていない理由が、本人のやる気や意欲に起因するものか、その他に要因がないかを確認する		
		支援者の意見・評価	・上記以外で、就労意欲の有無に関係すると思われる内容について、気づいた点を記載する。		
対象者が考える就労のイメージ・希望	希望の就労先	業種	・対象者本人が希望している業種・雇用条件について確認し、就労が困難と思われる場合は、現実的に就労に結びつきやすい業種、雇用条件とのマッチングを確認し、就労支援の基礎資料とする		
		仕事の内容			
		賃金			
		週の勤務日数			
		勤務時間			
		雇用形態			
		勤務先			
		その他の条件			
希望する支援内容					
目標就職時期					
就労に向けての課題・問題点等					
就労支援に向けたCWの見立て(課題改善や長所を伸ばすための支援、活用できる資源等について)					

就労支援のアセスメントシート << 支援検討シート 記載要領 >>

平成〇年〇月〇日～〇年〇月〇日現在 記入者

現在の求職方法	履歴書の書き方 (履歴書の提出)	記入に使う筆記用具	・履歴書を記載するのに、鉛筆など相応しくないものを用いていないか確認し、就労支援の基礎資料とする。		
		写真の貼り付け	・ 貼り付けしている ・ 貼り付けしていない		
		志望動機や長所等の記述	・ 面接を受ける会社に合わせて記述 ・ 全ての履歴書に同じ内容を記述 ・ ほとんど記述していない 理由 ・面接を受ける会社の業種や雇用条件が違っても、同じ記載内容になっていないか確認し、就労支援の基礎資料とする。		
		本人の評価	・ 十分にアピールするものができている ・ 一般的なものができている ・ あまり良いできとは言えない ・ よく分からない ・ その他() 理由 ・今までの履歴書の書き方について、本人は正しいと評価しているか確認し、就労支援の基礎資料とする。		
	面接の受け方	事前に行うこと	<input type="checkbox"/> 履歴書の作成 <input type="checkbox"/> 自己アピールの練習 <input type="checkbox"/> 受ける会社の情報を収集 <input type="checkbox"/> 面接場所の所在地、所要時間のチェック <input type="checkbox"/> 着用する服を用意 <input type="checkbox"/> 模擬面接 <input type="checkbox"/> 特に何もしない <input type="checkbox"/> その他()		
		当日の身なり	・企業面接を受ける際に、好印象を与える衣服を着用しているか確認し、就労支援の基礎資料とする。		
		面接で気を付けていること	<input type="checkbox"/> 面接時間に遅れないようにする <input type="checkbox"/> 笑顔を中心掛ける <input type="checkbox"/> 礼儀正しくする <input type="checkbox"/> 姿勢をよくする <input type="checkbox"/> 言葉遣いに気をつける <input type="checkbox"/> 目を見て話す <input type="checkbox"/> 積極的にアピールする <input type="checkbox"/> 特に気をつけてない <input type="checkbox"/> その他		
		本人の評価	理由 ・得意である ・ どちらとも言えない ・ 苦手である ・企業面接を受けることについて、得意・不得意の理由を確認し、就労支援の基礎資料とする。		
	ハローワークの仕方	利用状況	・ よく利用する ・ たまに利用する ・ ほとんど利用しない ・ 全く利用しない 理由 ・求職活動を行う方法として、ハローワークの利用状況とその理由を確認し、就労支援の基礎資料とする。		
		利用方法	<input type="checkbox"/> 求人情報の確認と面接の申込み <input type="checkbox"/> タッチパネルで求人情報を検索 <input type="checkbox"/> 職業訓練、技能習得講座の募集確認 <input type="checkbox"/> あまり活用していない <input type="checkbox"/> その他()		
面接の申込み方法			タッチパネルでの求人情報検索方法 ・ 知っている ・ 知らない		
話し方	CWの見立て	・支援対象者の外見(髪型、髭、爪などの整容、服装、話し方等)で求職活動の妨げとなるとと思われる点について記載し、就労支援の基礎資料とする。			
現在の支援方法	現在の主な支援状況				
	(支援担当者所見) 評価	福祉事務所としてできたこと、今後の課題			
		対象者ができたこと、努力した点、今後の課題			
自立支援計画策定のポイント (支援担当者所見)					

就労支援検討シート No.

就労支援のアセスメントシート << 基礎シート 記載例 >>

平成〇年〇月〇日～〇年〇月〇日現在 記入者

最終学歴	中学・高校・高専・短大・大学・大学院・その他() ()卒業又は修了 中退・在学中		運転免許	無・ <input checked="" type="radio"/> 有()
	最終学歴が中退の場合は、その中退した理由		資格	なし
基本項目 これまでの職歴	勤務期間	勤務先	仕事内容・業種	離職理由
	1 〇〇年〇月～〇〇年〇月	〇〇電化	電化製品の組み立て業務	借金取りが会社まで取り立てにくくなったため
	2 〇〇年〇月～〇〇年〇月	〇〇ハチンコ	ホールスタッフ	店の客とのトラブルにより解雇
	2 〇〇年〇月～〇〇年〇月	〇〇建設	建築現場の土木作業	体がきつい割に収入が低かったため
	2 〇〇年〇月～〇〇年〇月	〇〇警備	道路工事現場の警備業務	あまり仕事を回してもらえず会社と口論になり自主退社
	(5) ~			
	(6) ~			
	(7) ~			
健康状態 医学的判断(主治医意見等)	就労	<input checked="" type="radio"/> 制限なし・制限あり		
	仕事内容	特設業種を制限する必要はない。常識的な範囲の就労であれば問題ない		
	1箇月の勤務日数	<input checked="" type="radio"/> 制限なし・15日以内・10日以内・5日以内・その他() その理由 同上		
	1日の勤務時間	<input checked="" type="radio"/> 制限なし・5時間以内・3時間以内・その他() その理由 同上		
	その他			
就労意欲の判断	求職開始時期	1年以上前～・ <input checked="" type="radio"/> 6箇月～1年以内・3箇月～6箇月以内・1箇月～3箇月以内・1箇月以内・なし		
	求職日数	月(4)日程度・週(1)日程度		
	主な求職方法	<input checked="" type="checkbox"/> ハローワーク <input type="checkbox"/> 求人誌・新聞広告 <input type="checkbox"/> インターネット <input type="checkbox"/> 親族・知人の紹介 <input type="checkbox"/> その他()		
	直近1箇月の面接回数	〇件(内訳:連絡待ち 件・不採用 件・その他 件) 主な不採用理由 ここ最近では面接にも申し込んでいない。以前は頻繁に受けていたが、連絡もなく不採用とされることが多く、嫌気がさした		
	求職活動を行っていない理由	1. 育児・子育て 2. 員の看護・介護 3. 自身の体調不良 4. 自身の精神的不調 <input checked="" type="radio"/> 5. その他(自信の喪失など) ※具体的な状況・原因:警備関係の仕事を中心に数回面接を受けたが、採用されないばかりが、不採用の連絡すらもらえず、やっても無駄だと考え始めている		
	支援者の意見・評価	求職期間が長期化・マンネリ化していることも要因としてあろうが、求人誌を見たりする程度で活動自身も活発とは言えず、求職意欲がかなり減退している様子。直近の面接状況においても全く申し込んでいないところを見ると、対象者が面接を得意としていないという点も要因ではないかと考えられる。また、求人先も偏った範囲でしか行っていないことが伺える		
対象者が考える就労のイメージ・希望	業種	建設業・製造業・情報通信業・運輸業・卸売・小売業・飲食店・宿泊業・医療・福祉・サービス業 <input checked="" type="radio"/> その他(警備)		
	仕事の内容	事務・接客業以外の仕事を希望		
	賃金	・5万円～10万円・10万円～15万円・ <input checked="" type="radio"/> 15万円～20万円・20万円以上・その他()		
	週の勤務日数	・1日～2日・2日～3日・3日～4日・ <input checked="" type="radio"/> 4日～5日・その他()		
	勤務時間	8:30～17:30まで・1日8時間・週5日・月20日勤務・ <input checked="" type="radio"/> 日勤・夜勤・交代勤務		
	雇用形態	・ <input checked="" type="radio"/> 正社員・嘱託・パート・アルバイト・その他()		
	勤務先	<input checked="" type="radio"/> 管内・管外(勤務地) / (具体的に)		
	その他の条件			
希望する支援内容	<input checked="" type="checkbox"/> 求人情報の提供 <input type="checkbox"/> 職安等への同行 <input type="checkbox"/> 職業訓練・技能習得の斡旋 <input type="checkbox"/> 履歴書の書き方 <input type="checkbox"/> 模擬面接 <input type="checkbox"/> 特に支援は必要ない <input type="checkbox"/> その他()			
目標就職時期	仕事があるならすぐして働きたいと思っている。CWとの話し合いで目標就職時期を〇〇年〇月までとした。			
就労に向けての課題・問題点等	警備関係の仕事をしたが、倍率が高く、面接さえしてもらえないこともある。いい仕事があればすぐにもやりたい			
就労支援に向けたCWの見立て(課題改善や長所を伸ばすための支援、活用できる資源等について)	働きたい気持ちはあるが、希望の職種である警備関係への力加わりが強い。体力的に大きな問題ないため、他に適性な職種を検討することも含め、ハローワークを活用し、相談支援を検討			

就労基礎シート No.

就労支援のアセスメントシート < 支援検討シート 記載例 >

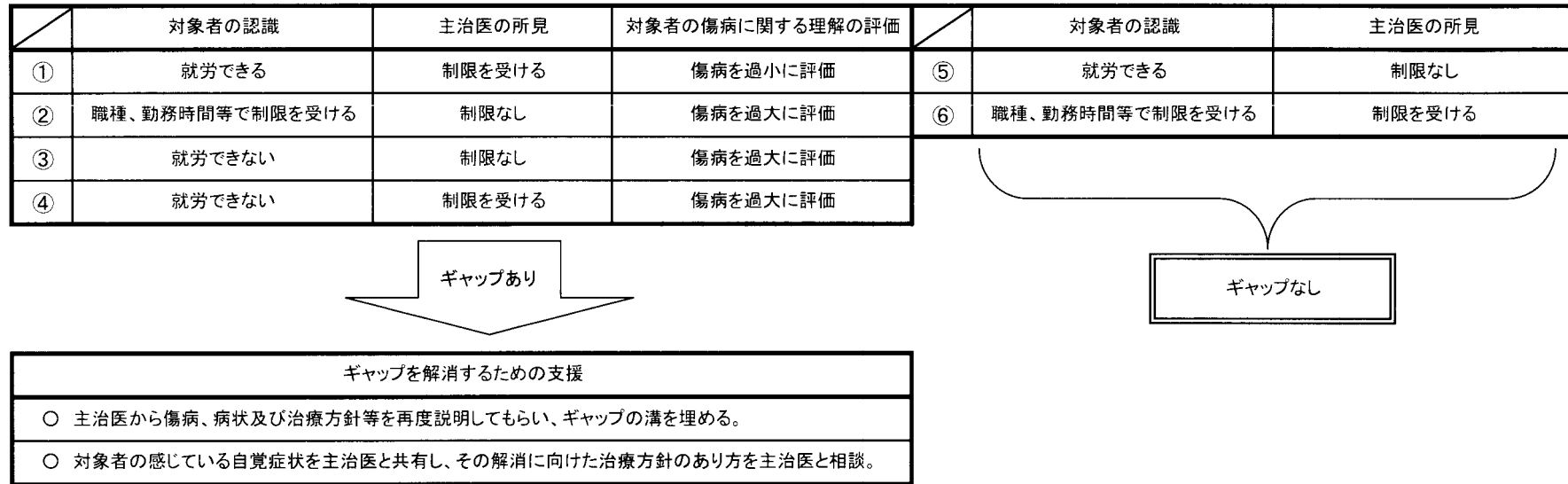
平成〇年〇月〇日～〇年〇月〇日現在 記入者

現在の求職方法	(履歴書の書き方)	記入に使う筆記用具	ボールペン		
		写真の貼り付け	・ 貼り付けしている ・ 貼り付けしていない		
		志望動機や長所等の記述	・ 面接を受ける会社に合わせて記述 ・ 全ての履歴書に同じ内容を記述 ・ ほとんど記述していない		
		本人の評価	理由	・ 十分にアピールするものができている ・ 一般的なものできている ・ あまり良いできとは言えない ・ よく分からない ・ その他()	
	面接の受け方	事前に行うこと	<input checked="" type="checkbox"/> 履歴書の作成 <input type="checkbox"/> 自己アピールの練習 <input type="checkbox"/> 受ける会社の情報を収集 <input checked="" type="checkbox"/> 面接場所の所在地、所要時間のチェック <input checked="" type="checkbox"/> 着用する服を用意 <input type="checkbox"/> 模擬面接 <input type="checkbox"/> 特に何もしない <input type="checkbox"/> その他()		
		当日の身なり	ジャケットは着ていくが、スーツを着たりネクタイを締めたりはしない。		
		面接で気を付けていること	<input checked="" type="checkbox"/> 面接時間に遅れないようにする <input type="checkbox"/> 笑顔を中心掛ける <input type="checkbox"/> 礼儀正しくする <input type="checkbox"/> 姿勢をよくする <input checked="" type="checkbox"/> 言葉遣いに気をつける <input type="checkbox"/> 目を見て話す <input type="checkbox"/> 積極的にアピールする <input type="checkbox"/> 特に気をつけてない <input type="checkbox"/> その他		
		本人の評価	理由	・ 得意である ・ どちらとも言えない ・ 苦手である あまり人前で話をするのは好きではなく、面接を受けても採用されないことが続いているため。	
		ハローワークの利用の仕方	利用状況	・ よく利用する ・ たまに利用する ・ ほとんど利用しない ・ 全く利用しない 理由 求人情報を確認し、条件に合った求人先に連絡する程度。窓口で相談には行っていない。	
	利用方法		<input type="checkbox"/> 求人情報の確認と面接の申込み <input checked="" type="checkbox"/> 求人情報を検索 <input type="checkbox"/> 職業訓練、技能習得講座の募集確認 <input type="checkbox"/> あまり活用していない <input type="checkbox"/> その他()		
面接の申込み方法			タッチパネルでの求人情報検索方法	<input checked="" type="checkbox"/> 知っている ・ 知らない	
話し方	CWの見立て	話し方は口数が少ないものの目立つところはない。整容については、無精髭が気になるが、これまでは面接前にいつも剃っているとのことであった。			
現在の支援方法	現在の主な支援状況		不定期にハローワークへ同行訪問をしている。		
	(支援担当者所見)	福祉事務所としてできたこと、今後の課題	ただ単に求職活動を行うよう促してきたが、もう少し丁寧な支援が必要な状態である。		
		対象者ができたこと、努力した点、今後の課題	採用面接に失敗して自信を喪失しながらも、仕事をしたいという気持ちはある。		
自立支援計画策定のポイント(支援担当者所見)		履歴書については、作成したものを確認してもらったが特に問題はない。面接については、確かにCWとの面談に際しても口数は少なく自身のことはあまり話さないため、実際の面接の場において積極性が足りないとられるかもしれない。今後、面接の受け方を重点的に支援していくとともに、ハローワークに1度同行してハローワークの利用方法(具体的には、面接の申込み方)を教える必要がある。整容については、無精髭が気になるが、これまでは面接前にいつも剃っているとのことであった。			

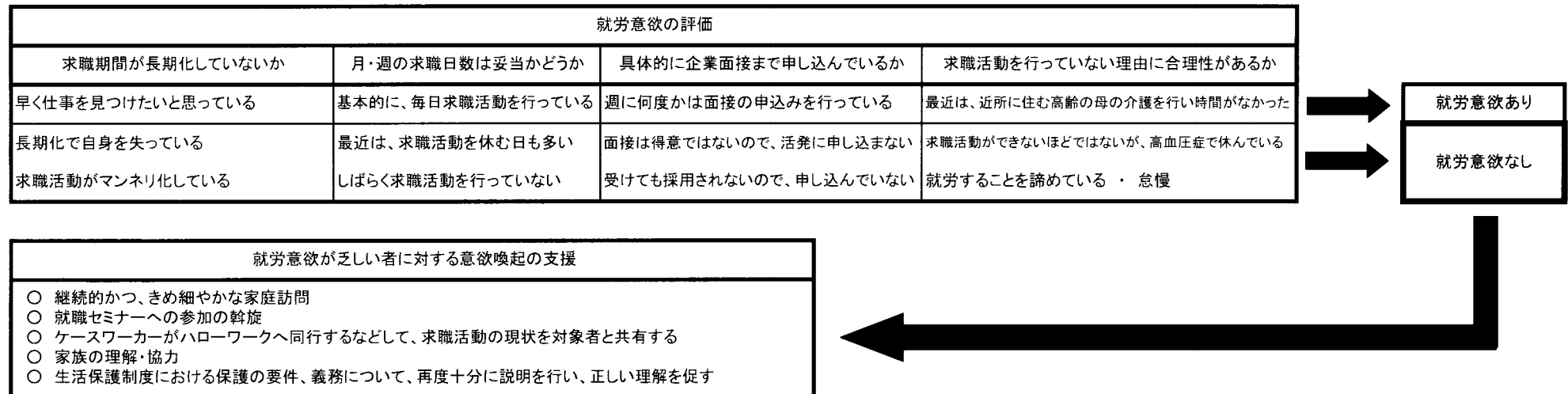
就労支援検討シート No.

就労支援のアセスメント結果と支援内容の例

1. 傷病に関する理解に課題がある場合の支援内容の例



2. 就労意欲に課題がある場合の支援内容の例



3. 希望の業種・仕事内容に課題がある場合の支援内容の例

○ 希望の業種、仕事内容の評価

- ・ 最終学歴 : 中卒・高校中退等であるにもかかわらず、学歴が求められる業種・仕事内容を希望していないか。
- ・ 職歴 : これまで経験した職業には、現在求人が少ないにもかかわらず、その職業のみを希望していないか。
- ・ 健康状態 : 健康状態によって、業種・仕事内容、勤務日数・時間等に制限を受ける(／制限を受けない)にもかかわらず、希望と齟齬をきたしていないか。

○ 支援内容の例

- ・ これまでの求職活動を振り返って、就労に結びつかない理由の確認
- ・ 雇用環境と対象者のイメージ・希望のギャップを解消する話し合いを行う
- ・ ハローワークへ同行する等して、求職活動の現状認識について対象者と共有
- ・ ハローワーク職員から就職に結びつきやすい職種・仕事内容の助言
 - [職業訓練や技能・資格取得の意欲があり、就労の可能性が見込める場合]
 - ・ 職業訓練、技能・資格取得の斡旋
 - [健康状態から就業に制限を受ける場合]
 - ・ 内職等の本人の健康状態に合った仕事や求職方法の紹介

4. 求職方法に課題がある場合の支援内容の例

履歴書の書き方	面接の受け方	ハローワークの利用の仕方
(対象者の作成した履歴書を確認しながらの支援の実施) ① 履歴書形式(記入に使う筆記用具・写真の貼り付け)の確認 ② 志望動機や長所等の記述内容を確認 ③ ①、②の支援手順を踏まえて、履歴書の作成 ④ 支援後に作成した履歴書に対する対象者の評価を確認 ⑤ 評価が悪ければ、理由を確認の上で再度同様の支援を継続	① 面接を受ける前に準備しておくことの確認 ② 当日の身なりに関する確認 <ul style="list-style-type: none"> ・ 整容(髪型、髭、爪等) ・ 衣服の汚れや臭い ③ 面接での心構え、留意点の確認 ④ 面接における基本質問(自己アピール)の練習 <ul style="list-style-type: none"> ・ 話し方、姿勢 ⑤ 福祉事務所職員を面接官にして模擬面接を実施 ⑥ ⑤の支援結果を見て、修正すべき点を支援	① ハローワークの利用状況の確認 ② 利用していない者には、その有効性を説明 ③ ハローワークに同行し、利用方法の確認、支援 ④ ハローワーク職員との面談に同席し、面接の申込みを行う

第2章 退院支援

第2章 退院支援

1 退院支援の目的

(1) なぜ退院支援を行うのか

介護保険法や障害者自立支援法などでは、誰もが人としての尊厳を維持し、住み慣れた地域で、福祉、保健、医療の連携の下、在宅福祉サービスや施設福祉サービスなどを活用し、その者の能力に応じ自立した日常生活や社会生活を営むことができるよう、支援していくことをその理念としています。

なかでも精神医療保健福祉施策においては、「入院から地域生活中心へ」を基本的な方針として、退院可能な精神障害者について地域生活への移行を推進していくこととされています。病状から退院可能であっても入院を余儀なくされている者の中には、自分一人の力では退院することや退院後に居宅生活を送ることが困難な状況にある者でも、何らかの支援を受けることにより退院が可能となり、退院後も居宅生活を送ることが可能な者が少なくありません。このように、入院から地域生活への移行を推進するためには、退院可能な入院患者に対して、積極的な支援を実施することが必要になります。

(2) なぜ生活保護行政が積極的にアプローチするのか

退院可能な入院患者が入院生活を余儀なくされている理由には、入院患者本人が退院に対する何らかの不安を抱えている、退院することに対して親族の理解や協力が得られない、退院先となる居宅や施設が見つからないなどが考えられますが、福祉事務所と関係機関が連携し、それらの課題に応じて具体的な支援を行うことで、退院を実現できる場合があります。

また、現在の生活保護行政において、生活保護費の5割以上が医療扶助費であり、そのうち約6割が入院医療費で占められています。特に、退院可能な精神障害者約7万人のうち、約2割が生活保護を受給していると推計されることから、いわゆる社会的入院の解消については、喫緊の課題として取り組んでいく必要があります。

2 退院支援のポイント

(1) 疾病、障害の特性の理解

疾病や障害を抱える入院患者と面接を行った場合、例えば、何を言っても返事がない、不安感が強い、落ち着きがないなど、相手がコミュニケーションをとりにくい発言や行動をとることがあります。しかし、これらの発言や行動は、疾病や障害の影響による場合があり、それらの特性を理解することによって、先入観や固定観念を排したアセスメントが可能になります。

また、疾病や障害は、心身機能の悪化や障害だけではなく、日常生活活動や社会生活への参加の場面での生活のしづらさや、環境的な不利などにも着目することが重要で、これらに着目することで、入院患者への正しい理解とアセスメントが可能となり、退院に向け克服すべき課題が発見でき、具体的な支援策を考えることが可能となります。

(2) あるがままをアセスメントする

支援対象者の個別的な事情について、客観的な事実に基づくアセスメントを行うことが、その後